

七尾湾岸トライアスロン後、国体代表選手に決定した時は嬉しく思いましたが、前回の千葉国体でスイムの重要性を実感したので、スイムが苦手な私にとって不安もありました。珠洲トライアスロンが終わってからの1カ月間は、スイム・ランに重点をおき、練習を積み重ね大会に臨みました。

現地入りして試走した時に会場設営風景を見て、私にとっては大きすぎる舞台にドキドキ、ワクワクしました。

大会当日は快晴、トライアスロン日和。水温が20.5度の為、ウエットスーツ着用となりました。

今回は海ではなく川なのでダイブスタートです。気合いを入れて、この日の為に特訓した飛び込みからレースが始まりました。

スイムで遅れを取りたくないの最初からキックをガンガン打って泳ぎました。

スタート直後はバトル、前はバトルにもあわなかったのが、嬉しくなり気持ちが高ぶり、できる限りみんなについて行こうと思いましたが、あっという間に集団から離れてしまいました。川は波がないのでプールのように泳げるかと思ったが、意外と波があり2周目は折り返しまでが長く感じました。前回よりは速いかなと期待してあがったところ、37位と聞いてガックリするが、皆さんからの「これから、これから」という声援で気持ちを切り替えてバイクへ向かいました。

単独走を予想していたけれど、バイクスタートがほぼ同時だった山梨県代表と2人で協力して走り始めました。2人を吸収し4人となり最初はローテーションがうまくいかなかったけれど、1周目が終わる頃にはなんとなく回るようになりました。第2集団とすれ違い、このまま集団で走っていけば、どんどん前にいけるかと思った矢先、前を走っていた青森県代表が急ブレーキをかけて落車、その上を乗り越えて私も落車してしまいました。一瞬リタイヤを考え諦めかけましたが、三宅さんからのメールの言葉「3A（慌てない、あせらない、諦めない）」が頭をよぎり、落ち着いてチェーンを直し再びレースに戻りました。走り出してから悔しさが込み上げてきて、絶対に一緒に走っていた集団に追い付こうと必死にペダルを回し続けました。すると3周目の折り返し手前で追い付き、集団か単独で走ろうか迷いましたが、向かい風がきつかったのでしばらく集団で走り、ランの為に足を残しておこうと考えました。4周目の折り返し過ぎから徐々にスピードを上げ、ラスト1kmで飛び出しバイクフィニッシュ。

ランはたくさん声援を受け、前の人を目標にして走り続けました。3周目の後半、足が攣りそうになったけれど、1人でも多く抜きたいという強い気持ちでペースを落とさないようにリズムを取って全力で走りました。ゴールしてから19位と知り、とても嬉しくなり最後まで諦めずに走ってよかったと思いました。

結果は2時間24分1秒（44人中19位）、スイム31分12秒（37位）、バイク1時

間9分29秒（13位）、ラン41分31秒（10位）

結果には満足していますが、今回も泳力のなさを実感し、スイムの大切さを痛感しました。そしてトップ争いにくい込むためには、もちろんスイムが課題でもあるけれど、エリートのレースに出て経験を積まなければいけないと思いました。

全国のトップアスリートとレースができ、前回とは違ったレース展開となって貴重な経験となりました。前回よりレベルアップできたのは国体に向けて練習会を計画し、いろいろアドバイスを頂いた堀野会長、島元監督のおかげだと思います。また、ハードな練習会にご協力して下さいました方々に感謝致します。現地での応援、サポート、励ましのメールは私の力となりました。

本当にありがとうございました。